

有志の研究チームで生態を追う

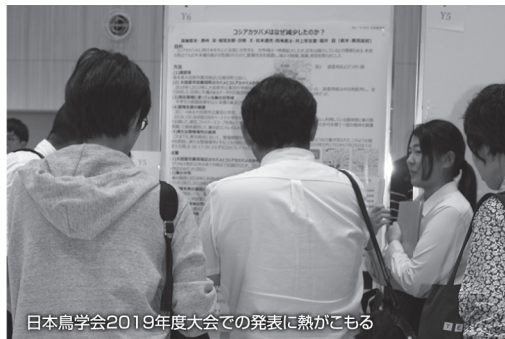
地道な研究活動で得た考察

2019年9月13～16日にかけて開催された「日本鳥学会2019年度大会」で、栃木県立黒羽高等学校の生徒がコシアカツバメに関する研究のポスター発表を行い、来場者の関心を集めた。

彼らは、担当の福井亘教諭が大学進学希望の2年生を対象に募った有志の研究チームで、普段は週2回、放課後に多くの巣がある共同実施校の黒羽小学校と川西小学校に行き、巣の観察や繁殖データの収集などを行っている。「部活動とかけ持ちなので大変です」と、いずれも演劇部にも所属している齋藤愛友さんと黒崎菜さんは話す。地道な研究活動の甲斐あって、コシアカツバメが減っている原因など、専門家たちの質問にも、しっかりと自分たちの考察結果を答えることができていた。



研究メンバーは2年生有志



日本鳥学会2019年度大会での発表に熱がこもる



熱心な見学者の質問に耳をかたむける生徒たち



●実施担当

福井 亘 教諭

●活動のモットー

研究を通して何事にもコツコツと取り組む姿勢を身に着けてほしい。お世話になっている小学校関係者への礼儀なども、大切にしていきたい。

学校概要

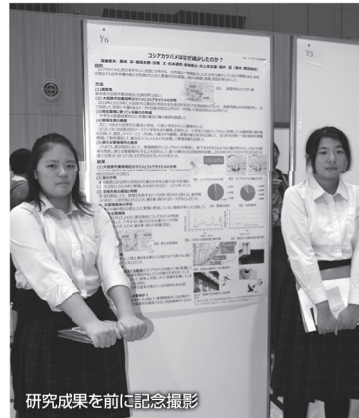


「明るく正しくたくましく」を校訓に、生徒たちは活発な学校生活を送る。国体常連の相撲部をはじめ、各種部活動も盛ん。

設立：1962年

生徒数：456人

所在地：栃木県大田原市前田780番地



研究成果の前に記念撮影

来場者の言葉が刺激に

一方、伝統の黒羽太鼓部に所属する印南丈さんとボランティア部の稲垣友都さんは、コシアカツバメの糞の調査を調べ、主食がトビイロシワアリであることを突き止めた研究を発表。日本鳥学会の学会員から「アリの繁殖時期とコシアカツバメの産卵日の関係を調べてみると面白いかもしれない」とアドバイスをもらい、大きく頷いていた。また、別の来場者から「これまであまり調べられていない研究だから、貴重なデータだ」と言われた稲垣さんは、「自分は飽きっぽい性格なのですが、もっとがんばろうと思うようになりました」と話す。

「大学での研究の予行演習になればと考えるようになったのですが、ポスター発表はいい刺激になったようです」と話す福井教諭は、「地道なデータ収集による裏づけが研究にどれだけ大切な、気がついてくれたのではないかと思います」と、生徒の成長を喜んでいました。

(令和元年度プログラム助成)

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創業者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索